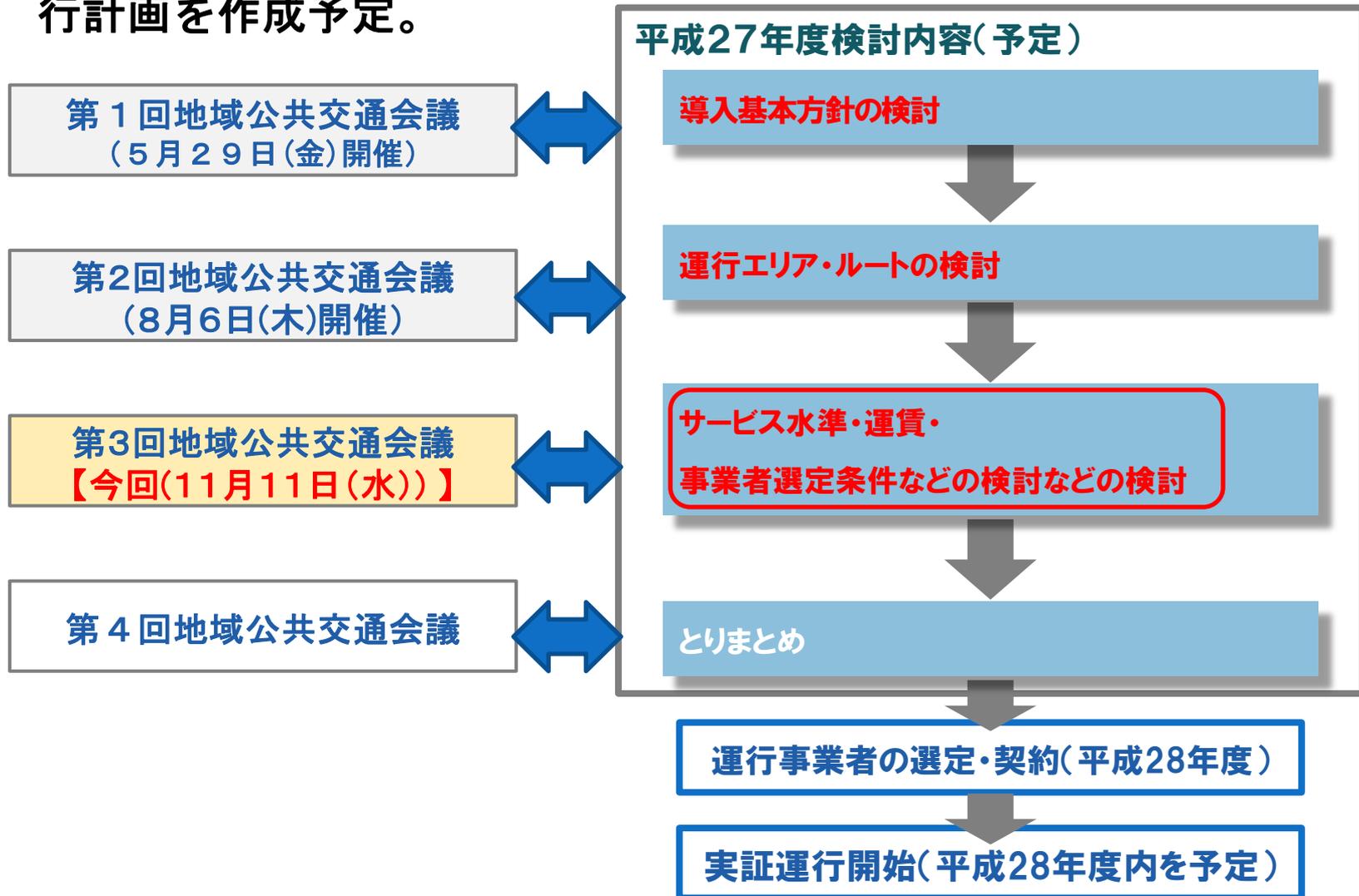


コミセン便の導入計画検討について

1. 検討の流れ

- 平成28年度からの実証運行開始を目指し、今年度導入計画及び運行計画を作成予定。



2. コミセン便の導入検討の背景

- コンパクトで平坦な播磨町の特長から、自動車や自転車中心の交通体系が中心であったが、高齢社会の進展等に対応した、持続可能な交通体系を形成することが求められており、今後さらに公共交通の役割が重要。

3. 播磨町内の移動に関わる課題

- 高齢者や子育て世代、移動手段を持たない人を中心に、公共交通の利便性向上に対するニーズが存在。
- コミセンやスポーツ施設を含めた公共施設や交通結節点などの拠点へのアクセス向上。
- 公共交通間の乗り継ぎ利便性など、交通結節機能の向上。
- 自動車、自転車が主な交通手段である播磨町における、高齢者等が安全に移動できる環境の確保とこれを通じた外出機会の拡大。
- 鉄道駅と町内各地を結ぶ路線バスが運行しているが、道路幅員が狭小な地域では乗り入れが困難であり、路線バス運行地域は限定。

● アンケートの自由意見に見る子育て世代・高齢者等の外出支援サービスに対するニーズ（カッコ内は年代）

- 播磨町は元気なお年寄りが多いと思います（いきいきセンターの利用者で年配の方多いと見受けます）。せっかく健康に配慮した施設が多いのにそれらの施設を結ぶ路線があれば利用しやすいのと思います。同様に子育て支援センターとそれらの施設を結べば子育て世代のお母さんたちも外出しやすくなると思います。自転車でも行けないことはないですが雨の日はちょっとね・・・となってしまいますので。（25～34歳）
- せっかく町内に2本の鉄道が通っているので、これら2駅と町内各所を結ぶ公共交通網（コミバス、乗合タクシーなど）の整備が町内の目指す方向ではないかと思います。（55～64歳）
- バスの路線が家の近くにないので路線を増やしてほしい（明幹沿い）。播磨町内の施設をまわるループバスがあれば利用しやすいかも（大中遺跡、整備中のJR土山駅商業施設、プール跡地、南・北支援センター、図書館（役場）など）。（25～34歳）

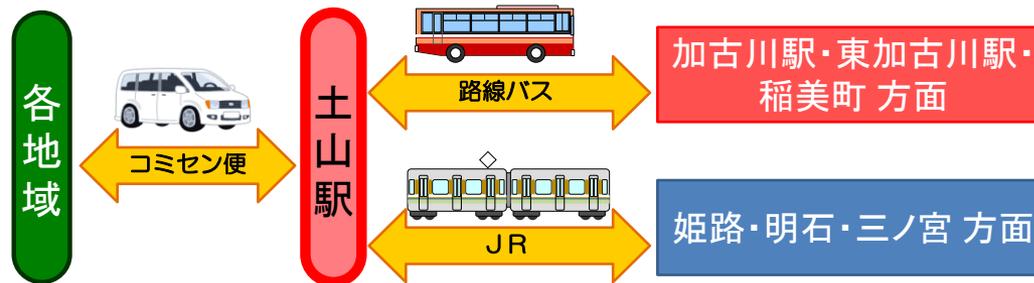
4. 取り組むべき施策の方向性

- 町内各地域から公共施設や鉄道駅等の拠点へのアクセス向上に取り組み、公共交通の利便性の向上を図る。

5. コミセン便の基本方針

- 高齢者・子育て世代の移動ニーズに合ったモビリティの確保
 - ⇒ 路線バスで対応できない地域からコミュニティセンター、子育て支援センターや鉄道駅等への移動ニーズへの対応。
 - ⇒ 高齢者・子育て世代をはじめとした町民の外出機会の拡大。
- 交通不便地域の解消
 - ⇒ 交通不便地域を解消するとともに、地域間における移動手段の確保・円滑化を図り、町民生活を活性化。
- 路線バスや鉄道駅との連携強化
 - ⇒ 路線バスと競合しないネットワークを形成。
 - ⇒ 路線バスや鉄道駅との接続及び連携。

■ 路線バスや鉄道駅との連携強化イメージ（例：土山駅）



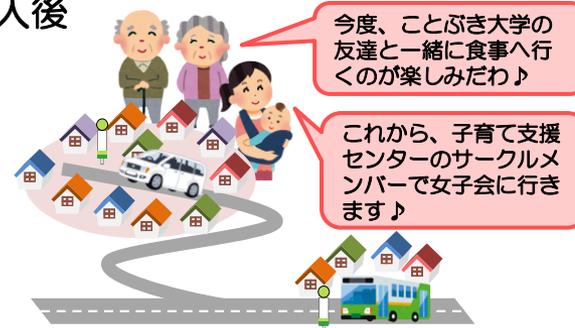
6. コミセン便導入による期待される効果

● 高齢者・子育て世代の外出機会の促進

○導入前

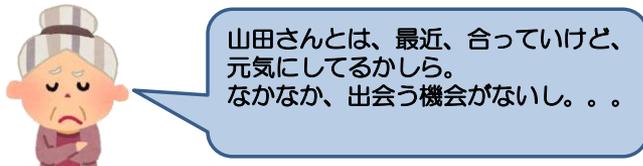


○導入後

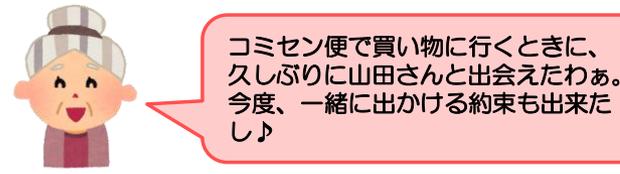


● 外出による地域住民同士の交流機会の促進

○導入前



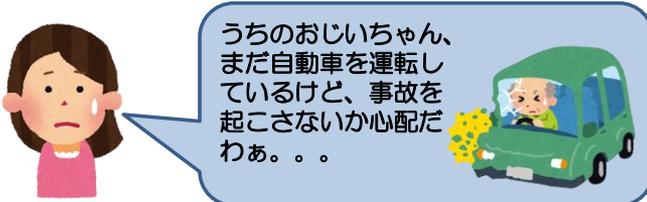
○導入後



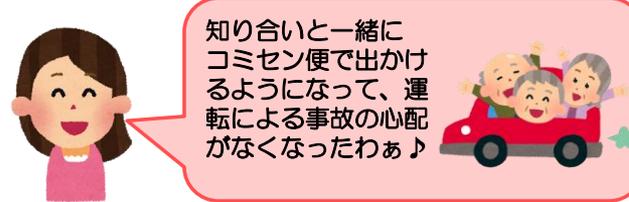
● 高齢者や子どもの見守り・地域の防犯パトロール機能

● 高齢者の交通事故リスク軽減

○導入前



○導入後

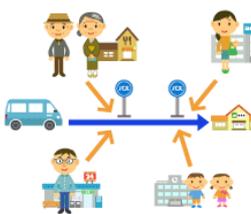


7. コミセン便の運行形態について

(1) 運行形態別に見たメリット・デメリット

- コミセン便の運行形態として考えられる「路線定期型」と「デマンド型」のメリット・デメリットについて、以下に整理する。

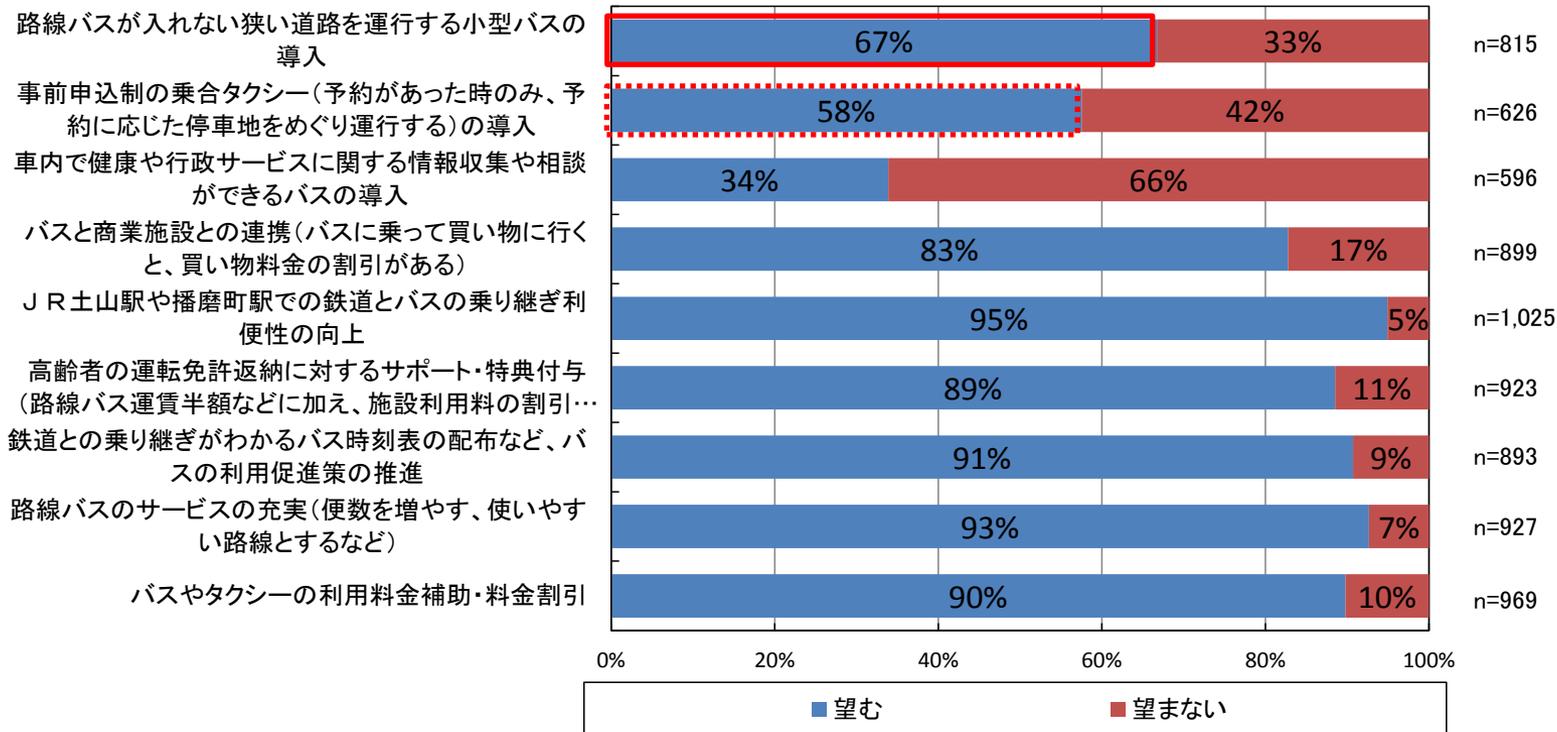
■運行形態別のメリット・デメリット

	形態	イメージ	導入に適した地域	メリット	デメリット
【路線定期型】 コミュニティバス	路線を定めて運行するものであり、設定する運行系統の起終点及び停留所の時刻設定が定時である運行の形態。		利用者がある程度まとまっている地域での導入に適している（集落や団地などが点在している地域）。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 様々な交通機関をつなぎ合わせる役割を担うことができる。 ○ 予約がいらない。 ○ バス停まで行けば必ず運行している。 	○ 利用者がいなくても運行するので、運行経費が必要。
【デマンド型】	デマンド交通とは、利用者が電話で利用時間帯と目的地の予約を行い、車は乗り合う人を時間に合わせて順に迎えに行き、全ての人を目的地まで送迎する形態。コミュニティバスの形態とは異なり、利用者の予約に応じて運行する形態で、事前の申込みが必要である。		利用者が広く点在している地域で、路線バスやコミュニティバス等による運行が困難な地域の導入に適している。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 予約が入った停車地のみを経由するため、需要を面的にカバーできる。 ○ 事前予約により、利用者がいる場合のみ運行する。 ○ バス停まで歩く必要がなくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 利用者にとって予約が必要である（高齢者の場合抵抗感を持たれる可能性がある）。 ○ 乗降地の異なる利用者を乗合で輸送することから、停車地の到達時刻が変化する場合がある。 ○ 多くの事例では利用に際して、事前申込を必要としている。 ○ 特に、高齢者においては、決まった乗降ポイントがないことから、仕組みが理解されにくい。 ○ 特定の利用者に利用が限定されやすい。

7. コミセン便の運行形態について

(2) 町民のニーズ（交通施策の導入意向）

■交通施策の導入意向



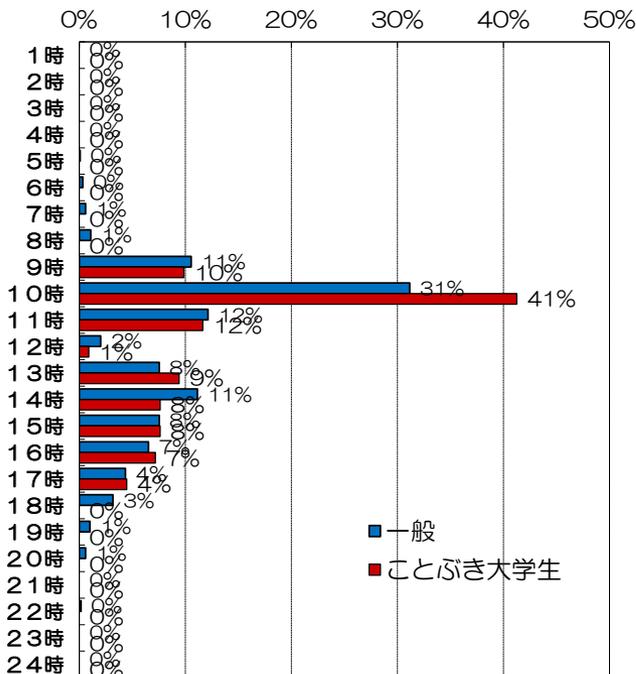
7. コミセン便の運行形態について

(2) 町民のニーズ（買い物時の外出時間）

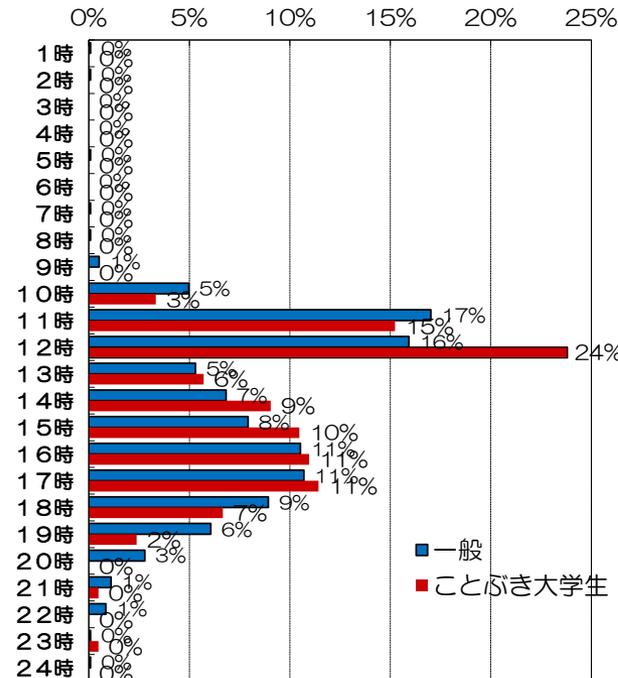
- 出発時間は、一般、ことぶき大学生ともに午前10時が最も多く、帰宅時間は一般では午前11時、ことぶき大学生では午後12時が最も多い。
- 午前中に出発し帰宅が午後になる回答も多く見られ、外出時間の平均は一般及びことぶき大学生ともに2.3時間/回である。

■ 買い物における外出時間の状況

出発時間



帰宅時間



⇒ 出発時間及び帰宅時間ともに、一定の時間帯に集中する傾向がある。

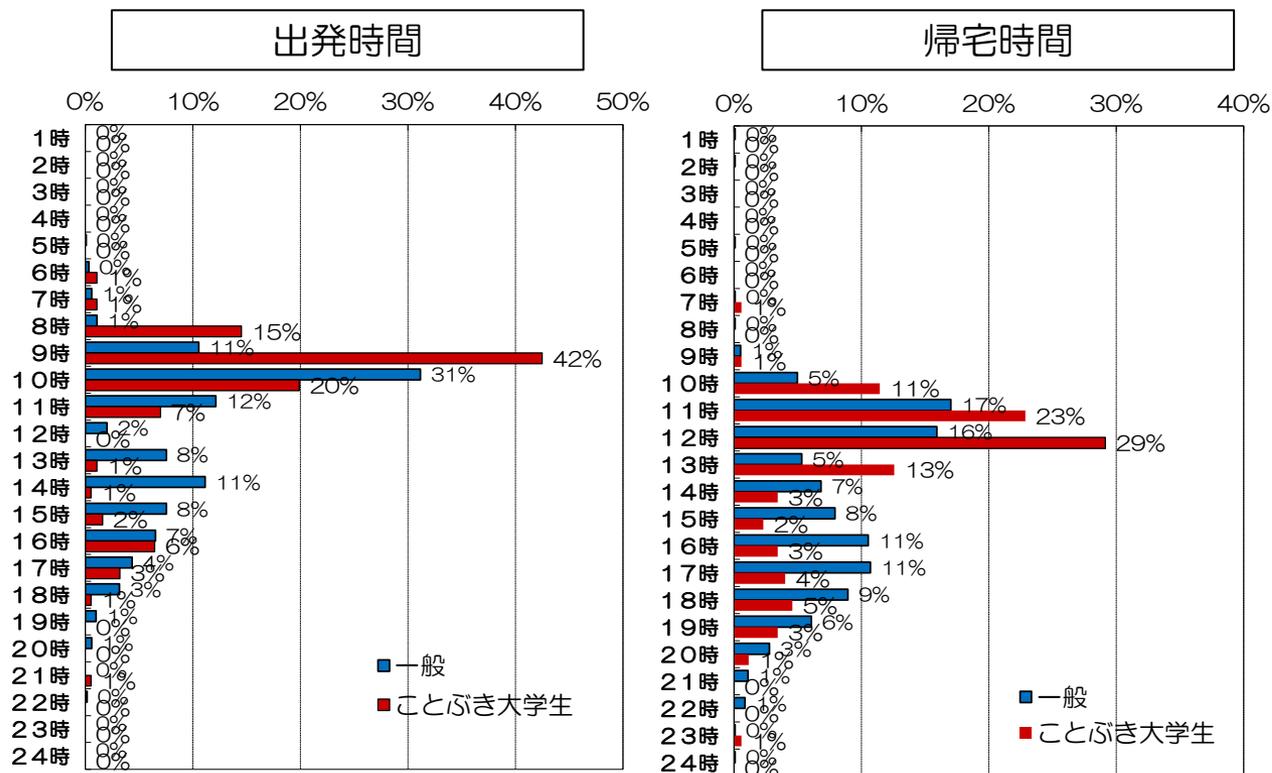
出典：公共交通に関するアンケート調査（平成26年9～10月実施 播磨町）

7. コミセン便の運行形態について

(2) 町民のニーズ（通院時の外出時間）

- 出発時間は、一般、ことぶき大学生ともに午前9時が最も多く、帰宅時間は一般では午前11時、ことぶき大学生では午後12時が最も多い。
- 午前中に出発し帰宅が午後になる回答も多く見られ、外出時間の平均は一般が2.3時間/回、ことぶき大学生が2.6時間/回である。

■通院における外出時間の状況



⇒ 出発時間及び帰宅時間ともに、一定の時間帯に集中する傾向がある。

出典：公共交通に関するアンケート調査（平成26年9～10月実施 播磨町）